



ライフドアすわ 地域ケア会議通信

発行：諏訪市地域医療・介護連携推進センター ライフドアすわ
〒392-0027 諏訪市湖岸通り 5-12-5 Tel:0266-78-0477
e-mail : info@lifedoor-suwa.jp



令和6年度第2回「諏訪市地域包括ケア推進会議」を開催しました

去る8月22日(木)、諏訪市総合福祉センターにおいて、「第2回諏訪市地域包括ケア推進会議」が開催されました。

推進会議は、“本人が望む生活”を守り支えるため、地域医療と介護に従事する専門職の方々が、職種において可能な取り組みを話し合い共有を図るとともに、互いの職を越えて“具体化可能なサービス”について語り合い、地域のより良い包括システムの構築と向上を目指して開催されています。

今回の推進会議は、前回と同様に参加者によって複数のグループを構成いただき、地域包括推進センターが提示する事例について、課題とされる状況に係る意見交換と対応方針等をご協議いただきました。今回の事例の対象者は、“要支援1及び事業対象者”とされ、テーマは“通所型サービスにより課題が改善した方の次のステップへの移行及び機能維持の場の在り方”の2つの事例について、薬剤師、介護支援専門員をはじめ介護

事業所関係者など大勢の方々に熱心にご提案をいただきました。

市では本年度中に2度開催を予定しており、地域医療・介護に携わる多くの皆様のご参加を得て、課題の受け皿となる地域の仕組みづくりや政策立案に結び付け、「地域包括ケアシステム」の拡充・深化につなげたいとしています。ライフドアすわは、推進会議の開催・運営に協力してまいります。

【第2回 諏訪市地域包括ケア推進会議】

＊日時：8月22日(木)18:30～20:00

＊場所：諏訪市総合福祉センター 交流ひろば

＊参加者：45名（内訳）医師1名 薬剤師12名
介護支援専門員10名 主任介護支援専門員6名
介護福祉士3名 ボランティアコーディネーター1名
看護師・保健師2名 リハビリ職2名
社会福祉士3名 柔道整復師1名
生活支援コーディネーター1名 その他3名



会議の流れ

オープニング	<ul style="list-style-type: none"> ・開会～あいさつ～前回のまとめ～グループワークの役割分担 ・プレゼンテーション：推進会議の目的、ルール確認 	
ケース検討 事例1・事例2	<ul style="list-style-type: none"> ■ケース概要説明 説明5min./事例 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の状況に至った要因（個人因子・環境因子） ・生活機能評価の説明-改善可能なポイントなど
	<ul style="list-style-type: none"> ■意見交換・検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者はご自身の専門分野の視点から発言
	<ul style="list-style-type: none"> ■グループ意見集約 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援方針のまとめ5min./包括
全体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り～あいさつ～閉会 	

ケース検討

事例1

〈ケースの概要〉

本人の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・74歳男性、要介護区分：要支援1 [身長]172cm、[体重]76kg、[BMI]25.7 ・外傷性くも膜下出血、脳出血のため、左上下肢に麻痺。 ・歩行自立だが、変形性腰椎症に起因する腰痛もあり、左下肢に力が入らず転倒頻回。 ・機能回復・筋力維持・回復を目的に通所型サービスでの運動を希望し、申請に至る。
家族の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・山間部の自宅で妻と二人暮らし。長男宅が隣接するため、孫の面倒見や保育園への徒歩での送迎も行う。近接する水田で稲作を行い、自家用車による近所への自立移動も可能。
医療受診	<ul style="list-style-type: none"> 内科：高血圧、糖尿病 既往：変形性腰椎症、脳出血、外傷性くも膜下出血
服薬情報	内科：ジルムロ配合錠、アラノロール、イコサベント酸
生活課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ADL自立、独歩可能だが、左上下肢に軽度麻痺があり、左手は力加減が困難。 ・洋服のボタンがかけにくい等の不便さはあるが、時間をかけ自力で対応している。 ・外出は週1回の妻との買物と、2か月に1度の受診。後者は自家用車にて自立。 ・自宅に近接する水田で家族が食べる分の稲作を行い、身体動作の頻度は高い。 ・左下肢の麻痺からくる感覚不良による躓きや、踏ん張りがきかないため、水田での転倒が頻回。自宅内や庭先での転倒もある。 ・隣接する長男宅の孫の面倒見や、保育園まで徒歩での送迎を行うこともある。 ・消防団仲間との交流があるが、コロナ禍以降飲み会がなく、現在は時々会う程度。 ・通所型サービスの運動は積極的に臨むが、農作業以外はテレビを見て過ごす時間が多い。
望む暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・筋力・身体機能を維持して稲作に従事し、美味しいお米を家族に食べてもらいたい。 ・転倒する際には、頭部を打たないように注意している。 ・(デイサービス利用以前は)気持ちが落ちていたが、通所開始以降は生活にメリハリがついたことから、今後もデイサービスの通所を継続したい。

〈事例の選定理由〉

通所型サービス(機能訓練型サービス)を利用し運動に取り組んだ結果、機能回復し要介護認定更新の際に1次判定で非該当となった。これに対して本人は「サービスの卒業は絶対にしない」との意向が強く、デイサービスに“通うこと”が目的となっている。このような、サービス利用により生活が自立された利用者の卒業(デイサービス以外のステップ)へ本人の視線を向けられるような声掛けや、支援方法について、意見交換を行いたい。

【問1】 要支援1から1次判定非該当に改善した状況を捉え、どのような方針を採用するか？

A: 現行サービスを終了し、次のステップへ繋げる B: 利用により得られた改善なので継続 C: その他

【問2】 改善後も継続を望む利用者を次のステップに繋げる関与手法には、どのようなものが考えられるか

(1) 声掛けの工夫 (2) 通所開始時等における目標設定の工夫 (3) その他工夫できる取組み等



〈グループワークによる主な意見〉

[対象者の特性]

自宅に隣接居住する長男夫婦や孫との関わりに加えて、家族の食卓に供する米の栽培を生活の張りとして生活する。通所による回復の目的もこの点にあり、運動メニューの実践により、運動機能の回復もみられている。後遺症による頻回の転倒がある状況下であっても、農作業は継続している一方で、自宅内での自立運動には消極的。事業所への依存度が高く、通所が日課＝居場所となっている。

[通所型サービスの利用継続の是非判断と関与手法のあり方及び課題改善後に構築し得る支援形態等]

- ・通所型サービス利用の課題改善後の状況が曖昧であることが、利用者の不安材料となっている可能性も考えられる。
- ・通所に慣れて生活の一部と化したのちに、それを変容させることは難しい。当初の目標設定時に、本人・家族・CM・事業所全体で目標(ゴール)に係る認識を共有することが必要。
- ・選択肢 A・B 双方の目途とするところは同じ。スタート時点においてゴールを具体設定し、課題解決に取り組む姿勢と改善後の姿をイメージすることが重要。
- ・通所による1回/週の運動メニューでは、維持が限度。事業所でのメニューに加えて、自宅で取り組み可能な筋トレメニューのレクとそれによる効果を相互確認しながら、自宅での自立行動を惹起し、予め設定した卒業に向けステップを進める。
- ・利用者の課題が改善された姿を「卒業部門」と位置づけてその際のご褒美を設定し、利用者同士のつながりと競争意識のもとに、“卒業”を目標とする取組みの活性化を図ることが重要。
- ・卒業後の行き先として、包括補助によるジムでのインストラクター指導メニューを構築し、課題改善者の卒業の位置づけを“無”から“有”に転換する。

ケース検討

事例2

〈ケースの概要〉

本人の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・78歳女性、要介護区分：事業対象者 ・[身長] 155 cm、[体重] 45 kg、[BMI] 18.7 ・数年前から腰・膝の痛みが生じ、整形外科受診。貼り薬、腰ベルト、膝サポーターを装着し様子を見ているが、何かの拍子に痛みが強まる状況にある。 ・身辺生活自立し、大好きな畑仕事も痛みと向き合いつつ続けるが、草取りの姿勢が負荷。 ・歩行時に筋力の低下を自覚したため、友人に相談したところ、通所型サービスでの運動を勧められた。チェックリスト 18/25 点(良好)。
家族の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・坂の多い地域にて夫と二人暮らし。市内在住の長男との行き来は希薄。 ・自宅から坂を 200mほど下った場所にある共同浴場に定時に行き、気心の知れた友人とのコミュニティがある。徒歩自立移動 1 km。友人宅へも出かける。
医療受診	<ul style="list-style-type: none"> 内科：逆流性食道炎 整形外科：下肢(O脚変形)、腰、膝、肩の痛み ※診断名なし。畑仕事による関節への過負荷との説明を受けている。 接骨院：週1回程度。膝の電気療法及びマッサージ
服薬情報	<ul style="list-style-type: none"> 内科：六君子湯内服 3回/日 ※服薬が苦手。自己判断で服用忌避のため残薬生じるが、主治医への相談は未了。 整形外科：モーラステープ ※痛み止めの内服は望まない。
生活課題	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事、庭の花の手入れを好む。日課として、1時間程度の散歩と、ストレッチ・ラジオ体操も積極的に取り組む。“杖に頼らずに歩けるからだ”を目標とし、健康保持に留意。 ・数年前から腰・膝の痛みが発現し、長いときは1か月程度続く。“特定の人”との関わりは大切にしているが、多人数の環境を苦手とし、地域のサロンには参加していない。
望む暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・畑での野菜作りや花を育てることによって気持ちの上で無心になれることから、関節の痛みとは上手く付き合いながら、畑仕事と友人との交流を続けたい。 ・今後も健康に留意し、身体を動かすことや食事などについて努力を継続したい。 ・身体機能の回復はデイサービス運動の成果であるので、今後も利用を継続したい。

〈事例の選定理由〉

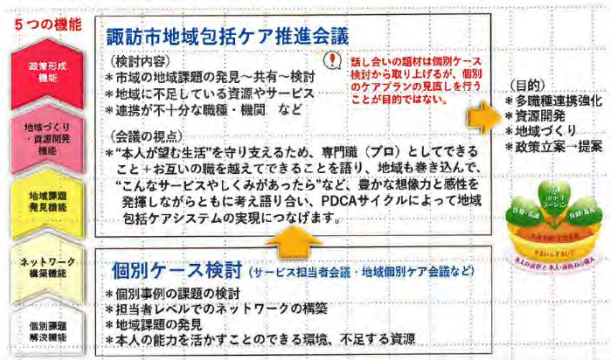
通所型サービスでの運動の効果が見られ、生活習慣の改善も見られる。痛みと上手く付き合いながら畑仕事を続けるという目標も、6か月間の支援で達成しつつある。課題の改善に伴い、サービス終了を目指したいが、サービスへの依存度が高いなか、利用終了による気落ちや、利用以前の状況への逆行も懸念されることから、改善達成者の機能維持を目的とした、提案可能な社会資源の可能性について意見交換を行いたい。

【問1】 身体機能の改善により望む暮らしが得られた利用者に係る機能維持の場を検討する
(1)内容：①運動系 ②働く ③ボランティア ④趣味 ⑤本人が果たす役割等 ⑥その他
(2)頻度 (3)場所 (4)必要とされる職種（実施主体が①住民のみ ②支援者のみで構成 ③その他）

〈グループワークによる主な意見〉

- ・本人は、運動の自立・実践が可能だが、一方で事業所への依存度が高い。卒業後のステップ移行に関しては、キーパーソンの関与が重要性を帯びる。
- ・事業所通所の前段階において、関係者間による目標設定を共有し、次のステップとしては、公民館での花づくり等の環境整備を設定するといった手法が有効だと思われる。
- ・望む暮らしができていないなかで、次のステップの提示が現状への固執を惹起する可能性が想像される。次のステップとしては、公民館や個人宅への出張りハビリを、既知の仲間とともに体験するといった手法の構築と移行が妥当ではないかと考えられる。
- ・運動系の処遇に際し、PT による痛みの少ない運動のレクが考えられる。その際、CM など関係者の関与と課題の共有が前提。今後、定年を迎える PT の員数が増加することから、スキルのある PT の OB によるサービス提供のしくみを構築してはどうか。
- ・現在の事業所と次のステップの事業所スタッフが一同に会して、金銭面・時間枠等も含めてバトンパスを実施してはどうか。松本市の好評事例に、ダンベル配布と週2回のレクの取組みがある。
- ・卒業を次のステップに進む達成と捉え、広報等に卒業生としての前向きな記事を掲載する。スマホ操作可能な高齢者が増えるなか、公民館での運動プログラムとして、筋力特化型・柔軟性特化型等の YouTube メニューを展開する。マシン搭載トラックを公民館に派遣し、地域の活性化ありきで展開する。また、卒業者が公民館において、先達ボランティアとして共助メニューを展開する。
- ・次のステップとして、花の手入れスキルを活かした公民館の環境整備を行うほか、農産物の保育園への食材提供や、畑での園児との協働など、社会貢献に繋がる取り組みとして展開する。また、古民家や公民館等において、住民個々の得意分野を教え合う自由な拠り所を構築する。

地域包括ケア推進会議の目的と意義について（高齢者福祉課説明資料）



諏訪市地域包括ケア推進会議にご参加ください

日 時 第3回 11月22日(金) 13:30~15:00
 第4回 令和7年2月20日(木) 開催時刻はあらためてご案内いたします

会 場 諏訪市総合福祉センター 交流ひろば

申込方法 QRコードまたはE-mailで
 ※E-mailでのお申込みの場合は、お名前、所属名、職種、電話番号および“参加証のご希望の有無”をお知らせください。



地域包括支援センター TEL: 0266 (52) 4141 (内線 296)
 ライフドアすわ TEL: 0266 (78) 0477 E-mail: info@lifedoor-suwa.jp